

Glocal Tenri



7

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.25 No.7 July 2024

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
見たまま、聴いたまま
／井上 昭洋 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」
(12)
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相①
／加藤 匡人 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (20)
漢人の民間信仰と天理教
／山西 弘朗 3
- ・ 社会福祉からみる現代社会—天理教の社会福祉活動に向けて— (15)
不登校支援における天理教の社会福祉活動 (1)
／深谷 弘和 4
- ・ ライシテと天理教のフランス布教 (36)
21世紀のライシテと天理教のフランス布教⑥
／藤原 理人 5
- ・ イスラームから見た世界 (29)
イスラーム神学者の仕事①
／澤井 真 6
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教えの伝播— (34)
7. コロンビアの非日常2 その2 「おちばがえり：実家への里帰り」
／清水 直太郎 7
- ・ おやさと研究所ニュース 8
第366回研究報告会 (4月15日) /
第367回研究報告会 (5月31日) /
2024年度公開教学講座のご案内

巻頭言

見たまま、聴いたまま

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

前号では、話をしっかり聴いているようで大事なことが聞き取れていないことがあることを私のインタビュー調査の経験から紹介した。ある年配のハワイ人キリスト教徒は、アウマクア (祖先神) についての知識や体験を持っているけれども、アウマクアという単語を口に出すのを憚るほどに伝統宗教から距離を置きたがっていた。私は彼女のそのような伝統宗教に対する屈折した感情を調査の段階で聞き逃していたのだ。聞き逃していたことはそれだけではなかった。まずは、前号で紹介した彼女のコメントの一部を再掲する。

私の場合、母親の家系はアーヌエヌエ (虹) で、父親の家系はナイア (イルカ) とマノー (サメ) だった。私の夫もマノーとナイア、その系統だったの。

このコメントから分かるのは、アウマクアの継承には父系と母系があり、その種類には虹、イルカ、サメがあるということだ。一見したところ、それ以上の情報はこのコメントから引き出せないように見える。

次に、中堅の男性ハワイ人牧師のアウマクアについての話を紹介したい。

私は、アウマクアは守護天使のようなものと見なしている。私の家族のアウマクアはマノー (サメ) だ。プエオ (フクロウ) が家族のもう一つの系統の、父方のアウマクアだ。そして、私はこれらのアウマクアを守護天使と見なすように育てられてきた。つまり、聖典に書かれているように、神は、空の鳥を、海の魚を私たちへの使者として再利用されたのだ。

彼のコメントで読む者の注意を引き付けるのは、ハワイ人キリスト教徒によるアウマクアの再解釈である。キリスト教とハワイの伝統文化との間のコンフリクトを回避すべく、どのような解釈がなされ得るのかを

彼の語りに見出すことができる。それこそが私の探していた物語であったので、私は彼の回答に満足してしまったのだ。

大量のインタビュー・データの中に埋もれた状態では、これらのコメントからアウマクアの種類とそれには父系・母系の継承があることが分かれば、それで充分と思ってしまうかもしれない。しかし、この2つのコメントには他にも重要な共通点がある。私が必要な共通点に気がついたのは論文を書き終えてからである。しまった! と思い、他のインタビュー・データにあたったところ、もう1つ同種のコメントを発見して、天を仰いだのだ。調査中にそのことに気づいていれば、調査の途中からでも注意を払いながらインタビューをすることができたはずなのだ。

2人のコメントに見るその重要な共通点とは、どちらも母系のアウマクアから説明を始めているという点である。特に、男性牧師は母方のアウマクアを無意識のうちに「家族」のアウマクアとして紹介し、もう一方のアウマクアを紹介する時に初めて系統について言及し、父方のアウマクアとして紹介している。“無標”のアウマクアの系統は母系なのである。すなわち、ただ単に (系統に拘らずに) 家族のアウマクアについて紹介している時、それはおそらく母方のアウマクアである可能性が高いということだ。

双系的継承だが母系が優先されるというこの事実は、複数のデータを照らし合わせて初めて判明することのように思われる。だが、女性信徒のコメントを愚直に読んで、どんな当たり前のことにも注意を払っていけば、アウマクアには幾つかの種類があること、アウマクアの継承には父系と母系があることに加えて、継承の説明は母系からなされているという情報を引き出すことができたはずだ。話をよく聴くというのは、そういうことである。参与観察であれ、インタビューであれ、見たまま聴いたままにどれだけ注意を払うことができるのか、大切になってくる。